

# 南琉球 最古の土器の謎を解明

戦略的研究プロジェクトセンター 特命助教

山極 海嗣

YAMAGIWA Kaishi

〔略歴〕 2016年 琉球大学大学院人文社会科学部研究科修了。博士(学術)。  
〔専門分野〕 考古学、元々歴史学を専攻していたが、より人類の本質やメカニズム  
に迫りたいと思い、行き着いたところが考古学だった。



## どのような研究ですか？

そもそも土器というのは粘土を成形し火で焼いて作った器で、遺跡から発掘された土器の形や模様などの特徴を調べるとそこで暮らしていた人たちの精神的な観念や好み、食生活といった文化的要素が見えてきます。沖縄の先史時代の考古学でも土器は注目されていて、南琉球では近年、従来最古とされた4800年前の土器文化を更に遡る1万年前の土器が出土したことで注目が集まりました。しかし、その土器は小さな破片ばかりで、全体像や模様は全く分からず、今までの外見的特徴を分析するというやり方では研究が難航しました。そこで戦略センターで出会った方々と相談したところ、理化学的な分析や統計学的な解析が加わり、粘土の素材の特徴や、使い方、加工した痕跡を読み取ろうというプロジェクトが誕生しました。形や模様はわからなくても素材の使い方、加工する技術がどの地域・どの時代と似ているかを比べれば歴史的・地域的な繋がりが見える可能性があり、分析の結果南琉球で使われた土器はその後の時代に出てくる土器と素材の利用が似ていることが分かりました。今後もっと広い地域時代と比べたら更に詳細に分かってくるはずですよ。

## この研究はどのように発展させる予定ですか？



考古学は所謂文系の学問と捉えられることが多いですが、今回のプロジェクトでは分析化学、統計学を専門にされる理系の方と一緒に行いました。この分析では人の目では追いきれないたくさんの科学的なデータを獲得し、統計という数学的なやり方で傾向を導き出していました。これまでの自分の研究では馴染みのないやり方でしたが、色々な人たちと組んでお互いに意見交換しながらひとつの研究をしたことで大きな発見がありました。1万年前というと沖縄では旧石器時代、日本では縄文時代です。これまで南琉球の土器は台湾がルーツと思われて来ましたが、台湾で土器が使われるようになったのは6500~5000年前のこと。1万年前はまだ台湾で土器は確認されていません。今回南琉球の土器の特徴を分析できたことで、従来の説を再検証へ導く発見となりました。戦略的研究プロジェクトセンターでの様々な研究者との関わり合いはとても新鮮です。最初文系は自分しかいなく緊張しましたが、同僚の様々な分野の研究を見聞きして互いの分野に共通点が見いだせると面白くなってきました。雑談の中から、本格的な研究に展開することもありました。それぞれ個別の分野や組織にいる状況では1本の太い幹は伸びるけれど、そこからなかなか隣の分野への枝葉は広がりません。しかしここに来て色々な人や分野と接触することで枝葉がどんどん開いていく。非常にいい効果を生んでくれたと思います。この戦略的研究プロジェクトセンターには助教や学生、ポスドクや学生アルバイトなど色々な人が出入りしていて、勉強会やセミナーを開くこともあります。専門外なことを勉強する必要はありますが、それが自らの分野自体を掘り下げ発展に繋がっています。我々はその恩恵を受けていると感じます。

